（七日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭　第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　遊沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

吾輩の人生観

小林久良雄

我等は毎日生きて居る、生きて居ると云ふことは大きな事實である、我等はどこから來たのか又どこに行くのか、所謂どこから我等は出て來て死ねばどうなるかと云ふやうな問題は俺は解らない。こゝに生きて居るといふことを實質と認めないものは誰もあるまい。

◇

こうして生きて居るからは誰しも幸福に生きたいと思はぬものはあるまい。然るに人生は慾望の持續である限りさうやすやすと幸福な生活を得られるものではあるまい。慾望のある限りは絶えず生活に破綻が生じ生をも否定したくなる。さればといつて慾望をうちきるわけに行かない。慾望をうちきれば生といふものを否定せねばなるまい。生を否定してしまへば何物もなくなつてしまひます。吾は世界にはいる事になるだらう

◇

死後を論ずるのではない生命のある限りは慾望がある譯になる其の慾望を如何に生かし行くかその「如何に」といふところに人間の價値が見出されるわけになる慾望の合理化と云ふ言葉がある。慾望の合理化とは價値的の生活をすることであるよく慾を如何に合理化して行くかと云ふところに價値的美しい立派な生活が開かれるわけになる

◇

しかし淺ましい人間の慾からは前に云つた通り美しい幸福な生活がやす〜と手に入るわけにはゆかない、常に美しい價値的生活が得んと欲するものは苦しまねばならぬ換言すれば理智的生活を持續せるものは苦惱の二字から脱することは出來まい。理智的生活これこそ我等の生きてゆくべき立派な道徳である

◇

有島武郎氏は智的生活を否定して、超道徳の本能的生活をもつて眞實なる生方であると云つた、俺はこの言葉に共鳴することは出來ない。否俺は有島氏の思想を批判するだけの力はもたないそうだ何よりも自己をよりよく観てよりよく生きて行きませう。讀者諸君にたのみします。俺の思想に誤謬な點がありましたなら此の紙面に於てでもよろしい又直接俺のところへ手紙なりともよこして何卒何も知らない無智な私を御教導下されんことを終りに臨んで願つて置きます。

磐新顧問

照合を歓迎す

平町平陽女學校を卒業し今年春ころまで同校の先生をしてたられた内郷村小島の坂本某女史の氏名と住所をくわしくお知らせ下さい　（知りたき人）

一私人の消息等については紙上でた答ひを遠慮します、名前は平陽校でた聞きしたら判ませう

私は十九歳の女ですが今身の上にいろ〜な出來事がありますので、心配して居ると、一人の友人はあなたの名が悪い姓名判斷をして貰ひ、名をかへて御覧なさいと云はれました、如何にしたら出來ませう、またその名に表向き改めるには、如何なる手續を致すのでせうか　（一女）

あなたの生れた時、御兩親は前途に幸あれかしと祈りつゞけた名でありませんか、御友人はどんな致育程度の人か知らぬがさうしたことにお迷ひなさるのはお爲めになりません、十九歳頃は女子の身體に變化のある時期ですから、いろ〜なことがあるのでせう、名などで氣にせず正しき道を踏みたのが義務を果す爲に努力なさい、猶さうした理由で改名しても表向きの名とすることは出來ませぬ、そのお積りで

大衆向き時代　小說やうのものを書きましたが、それで收入を欲つするのではなく、單に娛樂の爲めなのです、雜誌などに載せて貰へますまいか　（山田）

要するに内容の如何に依る事ですこれぞと思はれる雜誌社に交渉して御覧なさるもよいが、その前にその道の先輩に見てお貰ひなさるがお爲めでせう

私は自轉車屋に奉公して居る者ですが、勤めは朝八時から午後五時までその以後十時頃までは自由な身體ですから、その間內職をしたいと思ひます、如何でせう　（今井）

たゞひまがあるからと云ふのであれば寧ろその時間を利用して勉強し、現在の職業の爲にせらるゝ方が將來のた爲めであると考へます。

※明日の吉凶※

舊暦九月三十日
新暦十月八日

▲一白　一方に利あるも他方に損し易し衛生も注意▲二黒　貧乏籤を引き當易き日血氣にはやるは大凶▲三碧　無理をせず氣永にかまへる時はよき日となる▲四緑　妄動する時は後に悔を殘すことあり注意▲五黄　身は雨中にあれど行く手は晴るる急ぐまいぞ▲六白　粗略は流れ損失を招くこと多し旅行尤も凶▲七赤　自己誇らず安静を保たばよき日となるべし▲八白　根氣よければ成功すると惡氣を出さば敗る▲九紫　目前の私情を捨て正に向つて進むが吉なり

吉田眼科醫院

講談

[illegible]

(157)

高橋掬太郎創作
布施や八郎挿畫

月下の紫電

武家屋敷の裏通りを抜けて例の松並木の方に向つて歩いて行く黒装束の武士、その後から見えがくれに尾行して行くのが同じやうな黒装束の武士。

前を行くのは確に神部満左エ門——とすると尾行の一人は昌康の廻し者にちがひない。

前の武士は默々として歩んで行く尾行してゐる者かあらうとは少しも氣がつかないやうに見えた。

やがて松並に出た。

前の武士は木の間を縫ふやうにして行く、尾行の武士は木蔭から木蔭へ葉蔭に陰れる木鼠のやうに追ふた

前の武士はどこに行かうとするのか、定のないやうな静かなのろい足取であつた

そして松並木を通り抜けるとぐるりと曲つて田圃の方へ出た、尾行の武士は田圃の方へ出ては身を忍ばせるところがないので矢張り木蔭から木蔭を追ふて油斷なく月明りに向かうの様子を窺つた。

やがて前の武士は田の畔に小さい草小屋があるのを見つけてその中に入つた

草小屋は百姓達が何か入れる納屋であつた。

尾行の武士は木蔭から走り出て草小屋の陰に身を忍ばせた。そして垣の破れ目から中の様子を覗ふとしたが中は眞の暗で何も見えなかつた

と、突然であつた。尾行の武士の後で大喝一聲

「こらッ！」

と、それはたゞしつける聲であつた

「えッ」

と尾行の武士は驚いて振り向くと其處には何時の間に現れたのか天狗の假面を冠つた怪人が立つて居た

「あッ！」

と尾行の武士は危く引つくり返る程驚いた

「抜けッ！」

と例の焔を吐く様な物凄い叫び、今にも流星一閃抜き上げ走りそうな鋭さ——

「う！む」

と唸つてよろめくやうに後方に退つた尾行の武士は身をひるがへして逃げやうとしたが隙がない。

たとへ飛鳥のやうな早業も身をひるがへそうとも怪人の大刀は忽ち電光の如く走つて來るにちがひない

怪人は刀の柄に手をかけて火焔に映れる鏡のやうな眼光を輝やかしぢり〜と詰め寄つた

だぢだぢと更に後方に退つた尾行の武士は

「う！む」

と再び唸つてよんどころなく窮鼠却つて猫を嚙むやうに刀の柄に手を掛け敵はぬまでもぐつと敵の氣合を抑へて

「ねいッ！」

と斜に身体が飛ふ

忽ち紫電空に流れて鞘拂つた一刀ぢりぢりと逆に押して來た。

「む、ふふふ」

怪人ははみ出すやうにせら笑つて

「ねッ」

と裂帛の叫び一刀は鞘を走つて空に閃くや、對手の身體はもろくも亂れるのは勿論の相違

臭ッ」

臆ッ—と互の氣合が静寂なる夜氣をそゝげるがして殺氣を走るやがてからかふ様におしらつて居た突如鋭く嘲つて

「やッ！」

と云ふ氣合と共に尾行の武士は肩先に斬り込まれ

「う、うー」むと打ち倒れた

「ふ、ふー不忠者奴」呪ふが如き怪人の叫びそして怪人は倒れた武士をグッと睨みつけた。

廣告

ぢのくすり
御需めの方は
白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

十月七日より上映プログラム
籠兒　阪東妻三郎　愈本篇より獨特の妙技を振つて大亂舞
邪痕魔道　篇
劍戟！叫喚！怒號！榮之進の神影流、腕は冴わに冴わた、白刃左右、稲妻の如く閃光を立てゝ鮮血キツさ飛煙と化す、手の林らん麻の如くもつれ修羅の亂刃熱血地獄
突如公開
威風堂々映畫戰の第一線に敵を待ち他館上映日一七日）同日より公開宣言の如く必勝戰の火蓋を切る
河部五郎……猛演
砂繪呪縛（すなゑしばり）　第一篇　十巻
乞ふ御期待せず各社競映々畫を一蹴する常勝將軍河部五郎映畫と他の群小大日活プロダクションの駄作わい畫と御ひ判を……
淺岡信夫熱演　決死的巨萬の費を投じて異郷にロケーションを行ひ完成せる大篇
悲壯民族悲討　阿里山の俠兒
明治二十八年臺灣が我領土となりし時我政府は統治の目的を以て兵を送つた、ばん人の一部は之れを誤解した、阿里山の頂に日章旗が輝く迄には涙多き血涙史が多く綴られてある
日活松竹　平館　電四六六

内科
小兒科
皮膚科、
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
電話浪花三五一二番
振替東京三二四〇番
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方は磐城新聞社御申出で下さい。委細面談

釀造元
清世界　吉清水屋
石城小名濱町
銘酒
各炭鑛御用達
小野晋平
電話六番

寒さに是非……
毛糸各種　新荷着
手編用に防寒用にイヨ〜需用が激増してまゐりました。是非御用命を
平町三町目
三井呉服店
電話三十八番

夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　専門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　専門　外科部
平町南町　松村病院　電話七〇一

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業。
合資會社
丸三森川組
社長　大森鎮平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二二番

內科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

化粧くづれのない
固煉白粉
一　汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固練白粉をおつけ遊ばせ。
二　ホシ美固練白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧榮のする特徴を有つて居ります。
三　このホシ美固練白粉こそ、皆様の御滿足を贖ふことの出來る品でございます。
ホシ美固煉白粉
東京　星製藥株式會社　大阪

全勝を期して磐中健兒の意氣

撰手腕を揃へて 柔道大會に出陣

過般縣下體育大會の柔道試合に於て見事の榮を得て郷土の爲め萬丈の氣を吐いた縣立磐城中學校の柔道部では更に來る廿七、八の兩日水戸高等主催の近縣中等學校柔道大會に出場すべく日々練習に余念なく擔當教員或は

先輩指導の下に奮闘してゐるが教師鈴木虎之丞氏を訪れると次の如く語つた「私は昨年初めてこの磐城中學校の柔道に接したので當時は[illegible]の自分には到底その實力を知ることが出來ませんでしたが本縣下の大會に見事優勝したので初めてこの學校の活躍振を知ることが出來ました私がこの學校に教師として立つて以來兩年もこの學校の生徒が眞面目でよく指導を守つてくれるので、この分ではと前途を樂觀してゐました又

從來磐中が武道の精神に秀でゝゐたことをよく各方面から聞かされて若し不覺をとつてはと常に心配してゐましたが幸ひに橋本先生のた後援で貧弱な自分もやつとその責を果してゐますが今後とも自分は正しく戰ふ――！と云ふことを念頭に於て來る水高主催の大會にも出場することにしませう云々」尚氏は仙臺高工商船學校等に學んだ名手で所謂商路スピリツトの所有者である大會出場選手次の如し

（初段）荒川永四郎（初段）志賀重慶（初段）花園徹、佐藤八郎、志賀傳吉（補）蛭田四郎、鯨岡英俊

驛へ往きの線路工手 上下列車に轢る

滅茶苦茶になつた 綴驛構內の奇禍

常磐線綴驛駐在線路工手組頭高木啓次郎が去る五日午後十一時半頃同驛から下り方面の線路を巡廻中同驛構內から約三町餘離つてゐる內郷村大字高坂地方線路上に滅茶／＼に粉碎され男女の區別さへも付かぬ轢屍体を發見し驚いて平署に屆出たので七海部長出張檢視の結果屍体は

所持品等から當時好間村大字北好間字權現堂古河炭礦坑夫長屋居住鹿島村大字下藏持生れ鐵道線路工手高橋貞（四九）である事判明したが自殺か他殺かに疑あるため其の後平署は秘密裡に死因の調査中であつたが同日貞は親戚にあたる內郷村大字綴山崎佐一郎方に不幸があつたため葬式に參列し精進酒をしたゝか呑んで午後六時十分頃同家を立つたが線路工手であるところから自宅への近路である新記

線路上を通行したため折柄綴驛發下り平着午後六時三十四分の貨物列車のために轢殺され屍体が發見されなかつたため以後の各列車に轢かれ前記の如く滅茶／＼になつてゐたものであると

讀者と記者

將來の母性

井上たつ子

◇最近某所に旅行した時のこと、その汽車の中で三つと一つ位の二人の子供を連れた母親ともう一人その母親と同年配の婦人と同乘いたしました始めから、その母親と婦人に細心の注意をそゝいでゐた私は彼の女等が子供の性能、慾望などを全然理解することの出來ぬ人達であるとさとつてしまひました。といふのは一つ位の子供が泣きますとその母親は靜かに安眠させておく時代であるに拘らず、赤ん坊を他の一人の婦人と一緒に放り上げたり受取つたりして恰度まりでも投げる樣な亂暴極まるあやし方をやつてゐるのが見受けられました。ですからその子供の泣き止む時と言つてはK町に近づくまで見當らなかつたのです。又、大きな方の子供が眠りますと、母親はT町が近づく前に無理に起したのでT町で下りるのかと思ふとK町で降りる人達だつたのです。かうした場合眞に子供を理解し、愛情を持つた母親はK町に到着してから起すだらうと思ひます。その母親の態度はいつも子供の意志に反しようとした態度でありました

◇子供の眞情を理解し眞心で子供を指導してゆく母親も少ければ子供の身體を充分に保護し發達するやう心懸てゐる人もありないやうです。而も子供は生れながら世界中最も早く最も容易に死滅で驚きますこの不幸なる傾向は母親の粗製濫造と申すより外ない適當な言葉がありませぬ粗製濫造は母親の教育素養がたりぬところから起ります。精神的、肉體的にこの嬰兒兒童は如何なる保護を受くべきか、それこそ母親の研究指導に俟つべきものであります。

◇私は獨逸國民の完全な國民的設備や教育する母親學をならふことがあります。母にならうとする一般の婦人は特に母親の任務を意識し、優秀な國民を育成して頂きたいと存じます。

告訴して 逆ねじを喰ふ

浪江の松公

平町南町飲食店松の家方で去る七月十四日夜周旋せる女の事から喧嘩を始め左眼へ全治五週間の傷害を受けたと双葉郡浪江町周旋業吉田榮太郎（四〇）を相手取り傷害の告訴を提起した同町片寄松雄（四二）はその理由が事實を轉倒してゐたゝめ却て誣告として訴へられ五日午前十時から平區裁判所で懲役四ケ月を求刑された

運送屋と荷主が 集荷配達の便法

極めて簡便な法方で 平驛の新試み

平驛貨物取扱所では此程運送店及町內大荷主百餘名と愈々本年一日から開始された集荷配達の普及に就て貨物研究會を開いたが集荷配達は從來の如く驛及運送店へ直接貨物を持込ますとも驛貨物取扱所へ口頭書狀等で申込めば驛から荷集めに出張して出荷を成し得る極めて簡便の方法で從來は大貨物にあらざれば殆ど斯くの如き取扱はされてゐなかつたが新規則により行はれる事となつた集荷配達は小口に向つて從來の入貨物同様至便なる取扱を實施されたもので集荷にも配達にも白斤迄二十錢の手數料は是する事となつたが家庭により又は荷物により各家庭にて容易に運搬の出來ざるもの等に對しては頗る便利なも、平驛では何等かの方法により尚一般に之れが普及を圖る筈であると言ふ

需要期節で 木炭高氣配

濱三生產增加

濱三郡木炭同業組合に於ける去月中の木炭生產高は石城郡四萬七千六百五十四俵、双葉郡四萬八百俵、相馬郡一萬五千六百四十九俵總計十萬四千百十一俵、前月の十一萬七百六十一俵に比較すれば約六千俵の減であるが此れを前年同期の十萬三千三百六十俵に比較して見れば約千俵の增加を示してゐるが既に木炭の需要期を眼前に控えてゐるだけ今月あたりからは多數の生產高を示すものと豫想され加ふるに前年の需要期に比較すれば東都市場に於ける相場の如きも相當な高値を呼んでゐるだけ相場の激變を見ない限り久方振りの收益があるだらうと言ふので當業者は何れも力瘤を入れてゐる

城山一帶を襲ふ 神出鬼沒の怪賊

或は可成りの大物か 平署躍起となる

縣會議員選擧の取締で平署が全力を擧げてゐた去月中旬頃から平町城山方面の警察の手薄を覗つて荒し廻つてゐた胡鼠泥棒は選擧も既に終了を告げたので本月初旬頃から刑事が八方探查の歩を進めてゐるが本日に至るも未就縛で警戒の手が一寸でも緩めば其の隙を覗つては荒し廻る圖々しさに城山方面の住民は恟々として犯人の速かに逮捕される事を待あぐんでゐるが當初盜みの手口被害品等から喰ふに困る貧困者の犯行であらうと觀られてゐたもの巧みな出沒振りと上手な足跡の晦し方等から押して或は重大犯人が他方から追はれて平町方面に潛り込み山林中巢を喰ひ食を求めて荒し廻るものではないかと噂れ平署では各地警察署に最近の逃走犯人に就いて照會し一方各方面に犯人を嚴探中である

落ちぶれて 親の懷ろへ

駈落娘の行先

福岡縣田川郡川崎村生れなか二炭秋元あさ子（二三）は本年六月中野村某と知り合手を取つて駈け落ちし石城郡岩崎村藤原三井炭坑に來る野村は坑夫に自分は後山夫になつて共稼ぎ中過度の勞働にあさ子は心臟病に冒され衰弱して行くばかりになつたのに夫の野村は日毎に虐待するので堪まりかね六日平署へ保護方を願ひ出たので平署では親許から十五圓ほどの送金があつたのでこれを與へ將來を戒めて歸郷せしめた

愈々檜舞臺に乘る 小名濱港問題

伊東知事と鈴木町長 躍起實現に努力

小名濱商港問題は縣議選擧その他で延期になつてゐた政府の臨時港灣調查會は來る二十日から內務省に開かれ第二種重要港灣指定に關し協議することゝなつたが伊東本縣知事鈴木小名濱町長は右調查會の臨時委員に任命され、實にほゞ決定し知事は同調查會において本縣小名濱港について大體左の諸項について說明することゝなつた

一、小名濱港灣の經濟的沿革
二、交通系統上の地位
三、內地貿易狀況
四、地方經濟に對する同港灣の地位
五、築港が地方經濟におよぼす影響
六、同灣港と金融關係
イ、倉庫運輸業との關係
ロ、漁業との關係
ハ、各地商業取引におよぼす影響

大浦村の 產米講習會

けふ終了式

縣穀物檢查所では地方產米改良向上に努むるため去る三日から五日間所長小野技手を始め郡農會神尾大山技師縣北川技手平支所長安島技手等總出動で大浦小學校に產米改良講習會を開催して居た事既報の如くであるが愈々今七日講習會を終了し午後二時から同校に於いて講習證書の授與式を擧行したが縣下各市町村依賴生五十名の外隨意受講生百數十名に達し頗る好成績を示した

紅葉彩る 川前驛附近

これから賑ふ

石城地方に於ける紅葉の見頃本は月中から十一月一ぱいであるが紅葉に秋の山水を飾る所は夏井川の上流、夏井川前附近は深山の底を洗つて流れるせゝらぎに紅葉の影落ちて紅の水玉を散り飛ばす光景は全く畫のやうでこれからの日曜日等に杖曳く人が多く川前邊りは非常な賑ひを見るであらう

磐女運動會

十七日校庭で

縣立磐城高等女學校第十四回陸上競技會は來十月十七日午前八時（雨天順延）にて同校庭に擧行する筈であると

腸窒扶斯の漫延に 郡南民大恐慌

既に十二名を收容し 猶は猖獗の模樣

石城郡植田署管內には去月十六日以來腸チブスの流行猖獗を極め各隔離病舍に收容したが植田町では小野塚トキ（一〇）外一名錦村長子小野慶（三〇）を初め本月に至り入遠野村の佐藤峯太郎（三〇）外八名が突如同傳染病に冒され尙續々被疑患者等發生しつゝあり植田署員は擧げて豫防策に勉め一方植田町より臨時に醫師が出張し手當中であるが漫延の兆なので一般民は非常な恐慌を來してゐる

馬上局長宅の 女中腹毒自殺

流酸を多量に呑むで 原因は痴情らし

石城郡植田町郵便局長馬上誠一氏方女中小名濱町西町伊藤ふく（三五）は去る五日夜同家の奧座敷內に於て劇藥硫酸を多量に嚥下して自殺を計つたが死に切れず苦悶中家人が發見應急手當を加へ植田署から係官出張檢視したが七日午前七時遂に死亡した原因は種々取沙汰されてゐるが痴情關係らしいと

磐女庭球軍 福島に遠征

一行明朝出發

磐城女學校庭球部では來る九日福島高女校庭に於て行はれる縣下女子中等學校庭球大會に選手を出場さすこととなつた昨年度は決勝戰で女子師範に惜しくも破れたが今年は東鐵の阿部氏をコーチャーに猛練習を續け必勝の自信もあり大いに期待されて居る、一行八名は明八日午前七時の列車で中川教諭に引率されて出發

磐女生の遠足

磐城女學校では明八日午前九時より石森山に全生徒の遠足會を催す筈

平町地方の工場 續々と閉鎖

憂ふ可き財界動搖に 町當局對策講究

財界の動搖の影響を受けて縣下事業界は不振にて中には經營難の結果廢業する旨續出の有樣であるが石城郡にも多く、平町の如き法人組織の工場たる磐城製糸會社や松崎ガラス工場は既に閉鎖し湯本町品川白煉瓦會社分工場も經營難のため本月十日を以て閉鎖することゝなつた、平町では斯ては同町將來發展のため憂ふべきことゝしてこれが對策につき考究中であると

磐崎農事總會

神尾技師出張講演

磐崎村下船尾農事實行組合は來る十日午前十時から同村熊野神社に於いて秋季組合總會を開催し午後一時から同社境內に於いて農講演會を催す筈であるが當日は郡農會神尾技師の出張講演あると

粘土山事件 控訴判決

二年を求刑

石城郡赤井村字赤井粘土採掘請負業鎌倉金三郎（五三）は大正十四年五月から十一月まで石城煉瓦會社所有の地所から粘土一千六百貫を採掘窃盜した事件の控訴公判は五日宮城控訴院で開かれ原審通り懲役二ケ月（二ケ年執行猶豫）の求刑あつたが判決は十二日

鈴木縣議歸平

縣會議員鈴木辰三郎氏は六日午前九時平發にて出府の處昨七日夜七時にて歸平した

八代氏母堂逝く

東京朝日新聞平通信部八代公行氏母堂ヤス子氏は病氣療養中の處七日午前四時遂ひに死去した葬儀は十日午後二時鹿島村御代の自宅出棺興濟寺に於て佛式により執行の筈

劇と映畫

平館……本日寫眞全部替り日活大雄篇河部五郎主演『砂繪呪縛』は他社作品の追隨を容さぬ獨特の映畫だなほ臺灣阿里山を背景とせる民族悲詩『阿里山の俠兒』阪妻映畫『邪痕魔道』その他名篇ぞろいで好評

平町田町
高久病院
電話五一三番

松茸大暴落!!!
好季節
牛なべ
鳥なべ
松茸の御とほし
拾數年の經驗より得た『石川のなべ』は又格別の風味を加へました、殊に松茸の出盛りは牛肉の最も味附き時です、御家族御同伴の晝、夕食大小御宴會並に紅葉狩りの御歸りには是非『なべ』を圍んで御談笑の程御待ち申します。
牛鳥肉
御料理
平町田町
石川亭
電四三番

僅かな費用で樂しい旅へ!!日光參拜、鹽原游遊、笠間參詣
遊覽團体開催
期日（十月十六日（日曜日）十月十七日（神嘗祭）十月十八日（火曜日））
會費　金拾五圓也　豫定人員二百名
募集期間を雖も滿員の際は締切り申候
但し（申込と同時に保證金として金參圓を納入し殘額は拾貳日迄に完納されたし）
主催者　尼子亭　吉田直之助
電話二三〇番
申込所
長橋町　植頭商店
材木町　石山建具店
一丁目　馬目米店
三丁目　山田忠太郎
五丁目　吉田染物店
田町　石川牛肉店
鍛治町　鈴木多利吉
研町　吉村綿店
紺屋町　扇屋旅館
二丁目　關內油店
四丁目　丸市魚店
鎌田町　住吉樓
停車場　丸市旅館
南町　齋藤寅吉

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町　新川町
電話　三三五番

母ヤス儀豫て病氣の處養生相叶はず七日午前四時死去しました葬儀は佛式により十日午後三時興濟寺で執行略儀ながら紙上を以て御通知に代へます

十月七日

石城郡鹿島村大字御代

男　八代公行

義定

虎昭